

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>ナノデス アクキュライズⅣ</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.462</b>	△RG <b>0.060</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：アクキュライズⅣ**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離  
**4-1/2** インチ

番

**比較対照ボール：アクキュライズⅢ**

フレアーの幅  インチ

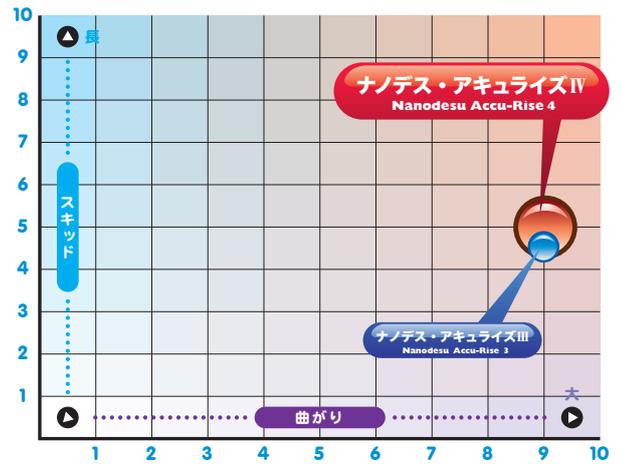
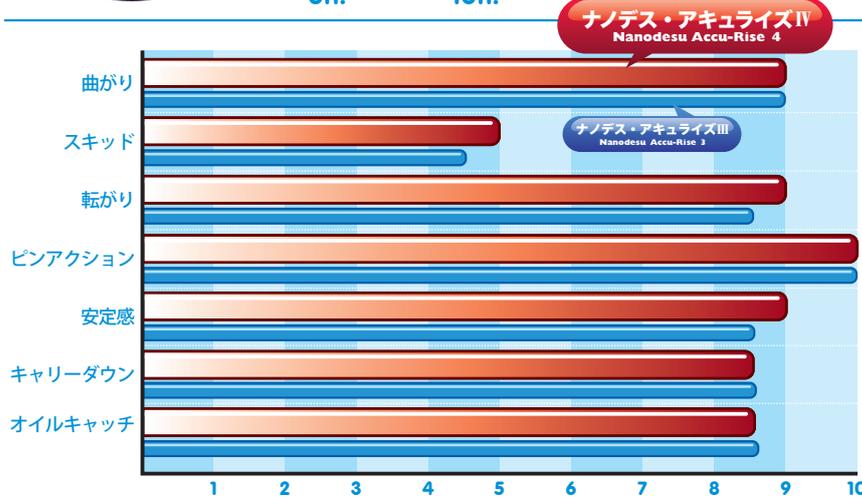
表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離  
**4-1/2** インチ

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- パフ



### ボールの評価

NANODESUシリーズ開発と共にNano-Thane LEVELを上げることで出てくるテーマが「キャッチの増加とピンヒットまでの動きの連動」。そのテーマを一気に解決できたのが今回のAccu-Rise4と言えるでしょう。まず着目したいのが今回採用したカバーはAccu-Rise3と同じLevel4ですが、配色を含めスキッドとドライゾーンの反応の大半を決める研磨工程を1から見直し、Level4ならではのキャッチ力を活かし、且つドライリアでの俊敏な動きに着目して作り上げました。

現段階でNanodesuシリーズのポリッシュボール最高峰のオイルに対する強さを持ち、ボールの曲がりのイメージを感じさせるバックエンドの動きもAccu-Rise最大を更新した、皆様に愛され今尚使用率の高いAccu-Line Tour Premium同様、過去のNanodesuシリーズを見返してもこれほどまでカバーストックとコアがマッチしたボールはあったであろうかと思えるほど完璧な仕上がりです。

このボールを手に入れ投球したなら、次に求めるのもこのAccu-Rise4だとその時点で約束できるであろう性能がAccu-Rise4を投球して頂ければ、その理由をお分かり頂けると思います。Accu-Line Tour Premiumを投球した方は汎用性の高いボールで幅広いコンディションで使用でき、ピンキャリアまでの完璧さを実感したと思います。その感じをキャッチを強めたバージョンがその手に入るのであれば、間違いなくAccu-Rise4を求めるはず。そこには苦せず上下のレパトリーが組める安心感と共に性能まで保障されるからです。今回の研磨過程の研究成果はこれからNano-ThaneのLevelを上げる性能のボールを作成するうえで非常に重要な要素であり、いずれ近い将来表面を曇らすことで摩擦係数を上げることなく、ポリッシュしたままで曇ったボールと同等のパフォーマンスが得られる可能性がでてきた始まりがこのAccu-Rise4であると思います。

### 特記事項

**研磨工程の研究成果がキャッチと曲がりの大きさに現れた国産ならではの極上の一品。Nanodesuの進化を一気に引き上げたこの試みは、さらなる進化へと歩み始める第一歩です。**